

王寺町で活躍の
マスコットキャラクター

「雪丸」



聖徳太子の愛犬雪丸は、人の言葉を理解し、お経を唱え、死後は達磨寺に葬ってほしいと遺言したといふ。口の髭と頭の烏帽子が「ちょっと渋い」と人気だ。



達磨寺 本堂

本堂は達磨大師の墓と伝えられる古墳の上に建てられている。鎌倉時代の創建。現在の本堂は、平成16年(2004)に再建された。堂内には、資料展示室が設けられ聖徳太子坐像、達磨坐像、千手観音坐像、達磨寺石塔埋納遺構出土品、古文書などが展示されている(拝観希望の方は、事前に連絡してください)。

聖徳太子と達磨寺



文・山崎しげ子



飛鳥に推古天皇の都があった時代、天皇の甥で皇太子であった聖徳太子は、学問と思索を深めるため、斑鳩の地に離宮を造っていた。その斑鳩と飛鳥を馬車で往復し、また大和川沿いに難波へも通い、大陸の進んだ文化を取り入れた。

そんなある日のこと。太子が河内国(大阪府の東部)からの帰り道、片岡山のほとり、なぜか、乗っていた黒馬の足が急に止まった。

太子が不思議に思っていると、旅人が道端で今にも餓死せんばかりの姿で倒れていた。だが、その目からは霊妙な光がさし、体からはよいにおいがしたのだ。太子は、この旅人は普通の人ではない、きっと仏の化身

であろうと思い、歌を詠んだ。

しなてる 片岡山に 飯に飢て 臥せる
その旅人 あはれ 親無しに
汝生りけめや さす竹の 君はや無き
飯に飢て 臥せる その旅人 あはれ

太子は旅人に紫の衣を脱いで着せ、食物を与えた。翌日、旅人が死んでいたため、使者に厚く葬るよう命じた。その後、調べると棺の中に遺骸はなく、紫の衣が棺の上に置かれていた。人々は、旅人は達磨大師の化身といひ、墓を造り、やがて寺を建てた。それが達磨寺であるといふ。達磨は禪宗の祖。(達磨大師で検索してね)

※ これに似た太子の物語は『日本書紀』『万葉集』などにも見える。こう



木造達磨坐像
(国指定重要文化財)

本堂に安置されており、像高が88cm。面長な顔で、両目を大きく見開き、閉じた唇から前歯2本を出している表情が個性的。永享2年(1430)、室町将軍・足利義教の命により造像された。(写真提供)王寺町教育委員会

物語の場所を訪れよう



「達磨寺」(王寺町本町2丁目1-40)へは...
JR-近鉄王寺駅から国道168号を南(香芝市方面)へ約1.2km。
駐車場あり(20台程度)。

☎0745-31-2341

した太子の慈悲に満ちた説話はやがて太子を神聖視する聖徳太子信仰へと発展し、平安時代以降、盛んとなった。

片岡の地名は、今も北葛城郡王寺町に残る。達磨寺の広い境内には、平成16年に再建された本堂、方丈などが建つ。また、太子の愛犬雪丸の石像も目をひく。

雪丸は、人の言葉を話し、お経も唱えたという。今、雪丸は可愛いマスコットキャラクターとして王寺町の町おこしに活躍している。

境内のすぐ西を、国道168号線が走る。とはいえ、時折訪れる冬の冷え冷えとした静けさの中で、人の背丈ほどもあるサザンカが、白や薄紅色の可憐な花をいっぱい咲かせていた。